

令和元年度 学校評価の結果について

北海道美深高等養護学校あいべつ校

1 教職員アンケートの結果について

(1) 調査対象

教育職員（教諭、実習担任教諭、実習助手、養護教諭）	21名
行政職員（事務職員）	2名
計	23名

(2) 回収率 23 / 23 (100%)

(3) 設問項目からの分析

ア 評価の高い項目 (19 / 19)

肯定的回答（A：十分である、B：おおむね十分である）が90%を超えた項目

- ・教育方針【No.1】
- ・教育課程（個別の教育支援計画、個別の指導計画、特性に応じた授業、年間事業時数）【No.2.3.4.5.6】
- ・生徒指導（人格尊重、生徒との信頼関係、関係機関との連携）【No.7.8.9】
- ・安全指導（施設・設備、環境衛生）【No.10.11】
- ・進路指導【No.12】
- ・情報発信【No.13】
- ・連携【No.14】
- ・保護者対応（相談、服務規律）【No.15.16.17.18】

イ 評価の低い項目 (0 / 19)

ウ わからないと回答した項目 (0 / 19)

(4) 集計からの分析

- 昨年度に引き続き、全ての項目で肯定的回答が90%を越えており、おおむね高い評価を得ている。
- 「おおむね十分」(19項目) や「やや不十分」(13項目) という回答もあることから、全ての項目において「十分である」という回答が得られるよう、教職員一人一人の意識の向上や取組の評価に基づく改善・充実に努める必要がある。

(5) 今後の取り組み

本校の目指す学校像である、教職員にとって「自分の資質・能力を生かし、教育者としての力量を向上させることができる学校」の実現に向けて、

- ①保護者との共通理解に基づき、学習指導及び進路指導の改善とさらなる充実
 - ②自立や社会参加に必要な資質・能力の育成に向けた、「主体的、対話的で深い学び」の視点に立った授業改善
- を推進していくことが必要であると考えます。

2 保護者アンケートの結果について

(1) 調査対象 保護者 49名

(2) 回収率 48/49 (97%)

(3) 設問項目からの分析

ア 評価の高い項目 (12/17)

肯定的回答 (A : 十分である、B : おおむね十分である) が90%を超えた項目

- ・教育方針【No.1】
- ・教育課程 (個別の教育支援計画、個別の指導計画、特性に応じた授業)【No.2.3.4】
- ・生徒指導 (人格尊重、生徒との信頼関係)【No.5.6】
- ・安全指導 (施設・設備)【No.9】
- ・進路指導【No.10】
- ・情報発信【No.11】
- ・連携【No.12】
- ・保護者対応 (相談、服務規律)【No.13.14】

イ 評価の低い項目 (5/17)

肯定的回答 (A : 十分である、B : おおむね十分である) が90%未満の項目

- ・生徒指導 (いじめ等への適切な指導)【No.7】
- ・安全指導 (事故防止)【No.8】
- ・保護者対応 (PTA活動)【No.15】
- ・保護者対応 (生徒の情報の伝達)【No.16】
- ・事務手続き【No.17】

ウ わからないと回答した項目 (15/17)

- ・教育方針【No.1】
- ・教育課程 (個別の教育支援計画、特性に応じた授業)【No.2.4】
- ・生徒指導 (生徒との信頼関係、いじめ等への適切な指導)【No.6.7】
- ・安全指導 (事故防止、施設・設備)【No.8.9】
- ・進路指導【No.10】
- ・情報発信【No.11】
- ・連携【No.12】
- ・保護者対応 (相談、服務規律、PTA活動、生徒の情報の伝達)【No.13.14.15.16】
- ・事務手続き【No.17】

(4) 集計からの分析

- 昨年度に引き続き、全ての項目で肯定的回答が80%を越えており、おおむね高い評価を得ている。
- 否定的回答 (C : やや不十分である、D : 不十分である) やわからない (判断できない) の回答があることから、保護者に対する丁寧な説明と対応に努め、保護者にとって「安心して子どもを通わせ、相互信頼を土台とした『共育』に参加できる学校」づくりの推進を図ることが必要だと考えます。

(5) 今後の取り組み

- 生徒指導（いじめ等への適切な指導）について
 - ・担任が窓口となり、生徒指導委員会を中心とした組織的な対応と保護者への丁寧な説明に努め、保護者との共通理解を図ります。
- 安全指導（事故防止）について
 - ・安全点検日及び日常的な点検に努め、施設・設備の安全対策の徹底を図ります。
- 保護者対応（PTA活動、生徒の情報の伝達）について
 - ・PTA活動については、より多くの保護者が安全に参加できる環境の整備や活動内容の充実を図り、組織の活性化に努めます。
 - ・生徒の情報の伝達については、分かりやすい説明と丁寧な対応に努め、保護者との共通理解の深化を図ります。
- 事務手続きについて
 - ・保護者からの相談等に対して、丁寧な説明と対応に努めます。

3 生徒アンケートの結果について

(1) 調査対象 生徒 49名

(2) 回収率 49/49 (100%)

(3) 設問項目からの分析

ア 評価の高い項目

肯定的回答（「はい」）が80%を超えた項目

- ・満足度（本校への入学）【No.1】
- ・信頼関係（相談・信頼できる教師）【No.3】
- ・学習指導（わかりやすい授業）【No.7】
- ・生徒指導（社会でのルールやマナー）【No.8】

イ 評価の低い項目

肯定的回答（「はい」）が80%を下回った項目

- ・困り感（学校生活）【No.2】
- ・友人関係（相談・信頼できる友達）【No.4】
- ・相談体制（助けてくれる人）【No.5】
- ・進路指導（将来の生活や進路の見通し）【No.6】
- ・学習内容（卒業後の生活や進路について）【No.9】
- ・自己有用感（自分を認めてくれる人）【No.10】

ウ わからないとの回答が10%を上回った項目

- ・満足度（本校への入学）【No.1】
- ・困り感（学校生活）【No.2】
- ・信頼関係（相談・信頼できる教師）【No.3】
- ・友人関係（相談・信頼できる友達）【No.4】
- ・相談体制（助けてくれる人）【No.5】
- ・進路指導（将来の生活や進路の見通し）【No.6】
- ・学習指導（わかりやすい授業）【No.7】

- ・学習内容（卒業後の生活や進路について）【No.9】
- ・自己有用感（自分を認めてくれる人）【No.10】

（４）集計からの分析

○肯定的回答が多い項目について

- ・「満足度」、「学習指導」、「生徒指導」の3項目については、社会人として必要な力を明確にし、生徒一人一人の課題や学びの特性に把握した指導の成果と考えられる。今後も主体的、対話的で深い学びのさらなる深化を目指した授業改善に取り組み、指導の改善・充実を図ることが必要だと考えます。

●否定的な回答（「いいえ」が10%以上）の項目について

- ・「困り感」、「友人関係」、「進路指導」の3項目については、肯定的回答も80%未満となっています。「進路指導」に関しては、「わからない」（31%）と合わせると43%となり、将来の生活や進路に見通しをもつことができていない生徒が4割近くいるという数値となる。「困り感」、「信頼関係」「友人関係」の否定的な回答の高さは、学校生活への不満や、将来の生活や進路選択の不安が一因であると考えられます。日々の授業や生徒面談等をおして、卒業後の進路を見据えた明確な目標設定を行うなど、進路指導の充実に努め、生徒にとって、「学ぶ楽しさを味わわせてくれ、社会人として生きていくための力を育ててくれる学校」づくりの推進を図ることが必要だと考えます。

（５）自由記述と集計からの分析による今後の取り組み

- 対人関係や信頼関係を含め、対人関係に対する不安や不満を感じている記述が見受けられました。特別の教科道徳の指導を中心に、「自己理解」や「他者理解」に関わる指導の充実を図っていくことが必要だと考えます。